

東京都健康推進プラン21（第二次）  
推進会議  
平成27年度第1回  
地域における健康づくり部会

平成27年8月5日  
東京都福祉保健局保健政策部

(午後5時57分 開会)

○山下健康推進課長 それでは、定刻より2～3分早いのですが、本日出席予定の委員の皆様おそろいですので、始めさせていただきます。

本日は、猛暑が続く中、大変お忙しい中ですが、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから「東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議平成27年度第1回地域における健康づくり部会」を開催いたします。

議事に入りますまで、しばらくの間、進行を務めます健康推進課長の山下でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本部会でございますが、平成25年度から開催しております。昨年度末で任期が終了しております。引き続き御就任の方もいらっしゃいますが、今年度から新たに就任された委員の方々もいらっしゃいますので、御順に紹介させていただきます。お手元がございます資料1、部会委員名簿の順に紹介させていただきます。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所健康増進研究部長の宮地委員でございます。

○宮地委員 よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 東京大学大学院医学系研究科の近藤委員でございます。

○近藤委員 よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 荒川区健康部長兼保健所長の倉橋委員でございます。

○倉橋委員 倉橋です。よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 練馬区健康部健康推進課長の内野委員でございます。

○内野委員 内野でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○山下健康推進課長 立川市福祉保健部健康づくり担当課長の横塚委員でございますが、本日は御欠席で、健康推進課長の池田様に代理出席いただいております。

○池田健康推進課長 池田です。よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 日の出町いきいき健康課長の三澤委員も御欠席でございますが、本日はいきいき健康課課長補佐、関根様に代理出席をいただいております。

○関根課長補佐 関根です。よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 東京都多摩府中保健所長の渡部委員でございます。

○渡部委員 よろしく願いいたします。

○山下健康推進課長 なお、本日は、小平市の地域健康づくり公募推進員の大崎様にお越しいただいております。

○大崎氏 よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 大崎様には、後ほど地域での活動などについて御発言をお願いしたいと考えております。よろしく願いいたします。

次に、事務局の紹介をさせていただきます。

福祉保健局健康推進課健康推進係長、寺杣でございます。

○寺杣健康推進課課長代理 寺杣と申します。よろしくお願ひいたします。

○山下健康推進課長 保健政策部健康推進課健康づくり企画担当、古川でございます。

○古川健康推進課課長代理 古川と申します。よろしくお願ひいたします。

○山下健康推進課長 保健政策部健康推進課、寺山でございます。

○寺山健康推進係 寺山です。よろしくお願ひいたします。

○山下健康推進課長 改めまして、私、保健政策部健康推進課長、山下でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、資料の確認をさせていただきます。お手元でございますクリップどめの資料を一式、御確認ください。

まず、次第がございます。その後に、先ほどご覧いただきました資料1、本日の部会の出席者名簿がございます。

おめくりいただきまして、資料2が「東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議の設置要綱」。

その次が、推進会議の委員名簿でございます。

その次に、資料4としまして「地域における健康づくり部会の進め方について」。

紙ファイルのほうに資料5としまして「健康づくり事業事例集」がございます。

クリップどめにお戻りいただきまして、資料6-1「パンフレット『健康の秘訣は仲間とのつながり（仮題）』（案）」について。

その後、資料6-2としまして、パンフレットの案が、A5サイズ8ページのものが①②とございます。その後、A4サイズで資料6-2の③として表紙のタイトル案の一覧がございます。

おめくりいただきまして、資料7がパンフレット「健康の秘訣は仲間とのつながり（仮題）」(案)に関する御意見、活用方法についてのアンケートをまとめたものでございます。

その次が資料8「『ちょっと実行、ずっと健康。』ウォーキングマップ（ひな形）の作成と活用について」。

おめくりいただきますと、A3のカラー刷りを六つ折にしたものが資料9-1で、「『ちょっと実行、ずっと健康。』ウォーキングマップ（ひな形）」でございます。

その下に資料9-2として、「『ちょっと実行、ずっと健康。』ウォーキングマップ作成ガイド」がございます。

こちらを3枚ほどおめくりいただいた後が資料10で、「『ちょっと実行、ずっと健康。』ウォーキングマップ（ひな形）の地域での活用の可能性について」、アンケートの集計結果でございます。

その後、資料11でございまして、こちらは「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査報告書の活用及び地域からの健康づくりを進めるにあたっての課題等」のアンケートの集計結果でございます。

その後、資料12としまして、「平成27年度ウェルネス・チャレンジ事業について」。

最後が資料13、これはA3サイズのを折り畳んでございますが、「平成27年度東京都健康推進プラン21（第二次）の推進・健康づくり事業推進指導者育成事業計画」の一覧が入っております。

この他、机上配布の資料としまして、座席表と、「東京都健康推進プラン21（第二次）」の冊子とその概要版、「東京都がん対策推進計画（第一次改定）」の冊子、「東京都保健医療計画の概要」「健康のためのヒント集」「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」の冊子をお配りしております。

なお、本日、提供資料といたしまして、大崎様から平成25年度都民調査の結果を独自に解析くださったカラー刷りの資料もございます。

資料は以上でございます。机上配布資料につきましては、会議の終了後、そのまま置いてお帰りいただきますようお願いいたします。

資料の不足等ございましたら、挙手をお願いいたします。よろしいでしょうか。

では、本日の議論でございますが、速記録として委員の皆様にご確認いただいた後、ホームページにおいて公開予定となっております。公開の会議ということで、御了承のほど、よろしくをお願いいたします。

なお、本部会の部会長ですが、引き続き国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所健康増進研究部長の宮地委員にお願いするということで、親会議であります東京都健康推進プラン21（第二次）推進会議の河原座長に御承認いただいております。

それでは、宮地部会長にこれ以降の議事進行をお願いいたします。

**○宮地部会長** 皆さん、こんにちは。ただいま御紹介をいただきました国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の宮地と申します。

本日は、お暑い中、御参集いただきまして、どうもありがとうございます。この部会でございますけれども、東京都民の地域における健康づくりに対する取組の効果的な推進のために、学識の方、そして地域の実際に健康づくり施策を担当されている方々の御意見を聴取しまして、都における健康づくり施策に生かしていくという、非常に重要な役割を担った部会でございます。先生方の忌憚ない御意見をぜひ今日はお聞かせいただいて、よりよい東京都の地域における健康づくり推進の一助としたいと考えておりますので、2時間の間、お付き合いをいただきたいと思います。何分、小さな部会ですので、余り形式張った議論をするというよりは、積極的に先生方がその場、その場で感じられたことを御発言いただいて、資料の修正等は可能ですので、積極的な御意見をいただければと思っております。2時間を予定しておりますが、今日はとても多くの議題がありますので、円滑に議題を進行していきたいと思っておりますので、何とぞ御協力ください。

それでは、議事に入りたいと思っております。まず初めに、議事1「部会の進め方について」、事務局より御説明をよろしくをお願いいたします。

**○山下健康推進課長** それでは、資料4「地域における健康づくり部会の進め方について」

をご覧ください。資料4の上の囲みに本日、第1回の部会の検討ポイントを記載させていただきました。

まず、昨年度までこの部会で検討していただいた区市町村の健康づくり事業の事例集でございます。昨年度末に完成いたしましたので、4月に各区市町村へ配布させていただいております。事務局でも各区市町村からの活用状況について御意見等いただいているところでございますが、自治体での実際の活用や、今後、どのような視点で御活用いただけるかについて、本日、忌憚のない御意見をいただけたらと考えております。

その次に、2でございますが、パンフレット「健康の秘訣は仲間とのつながり」（仮題）でございますが、パンフレットについてでございます。近年、ソーシャルキャピタルということが言われておりますが、机上配布資料6の「平成25年度都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査」からも、地域におけるボランティア活動等のグループに参加している人のほうが地域の人とのかかわりがあり、自分の健康状態をよいと感じている人が多いこと、しかしながら、退職により地域で過ごす時間が長くなる60歳代の年代の方々の参加は十分と言えない状況であることがわかりました。前回の地域部会では作成趣旨について御説明したところでございますが、今回、地域における活動などを実施していない方々に向けた普及啓発のパンフレットの案をお示ししておりますので、内容及び配付等に関しまして御議論いただきたいと思います。

その次が3番目、ウォーキングマップ（ひな形）の送付及び活用についてでございます。現在、東京都では、都民一人一人が負担感なく実践できる生活習慣の改善の普及を図っているところでございます。また、昨年末に策定いたしました東京都長期ビジョンにおきましても、2020年のオリンピック・パラリンピック大会を契機に都民がスポーツに関心を持ち、行動する機会をさらに拡充することとしておりまして、身体活動、スポーツについても機運醸成を図る動きがございます。そこで、日常生活における身体活動量を増やすため、健康づくりの視点を取り入れたウォーキングマップのひな形を作成して区市町村へ配付いたしまして、ひな形に準じた各区市町村版のマップ作成を支援することといたしました。このひな形は既に各区市町村へ配付させていただいておりますので、マップの活用、都民の身体活動量を増やすためにどんな仕掛けづくりが必要か、御議論いただければと思います。

その他としまして、平成25年度の調査の活用に関しまして御意見をいただきたいと思います。本日は小平市の地域健康づくり公募推進員の大崎様にお越しいただいておりますが、大崎様は、この報告書をもとに独自に分析をなさるなど、地域で御活用いただいているとのことですので、御紹介いただくとともに、推進員の視点からの御意見もいただけたらと考えております。

最後に、東京都から今年度の事業の紹介をさせていただきたいと思います。

「部会の進め方」の案は以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

事務局から、本日の部会の進め方、大枠、そして議題について御説明がありました。進め方、大枠について、何か御質問ありますでしょうか。

よろしいですか。では、一個一個の議題に入っていきたいと思います。

続いて「区市町村における健康づくり事例集について」、事務局から御説明いただきたいと思います。

○**山下健康推進課長** それでは、資料5、紙ファイルにとじたものでございますが、こちらをお開きください。平成25年度に区市町村の取組状況調査を実施いたしまして、地域の実情に応じて実施いただいている健康づくり事業の先駆的な取組について、資料を2枚おめくりいただきますと目次がございますが、「身体活動・運動、栄養・食生活」の分野で2つの事例、また「栄養・食生活、社会環境整備」の視点から2つの事例、「生活習慣改善、社会環境整備」の視点から11の事例、以上15事例を取り上げております。

こちらをおめくりいただきまして、2ページ、3ページからが実際の事例でございますが、2ページが港区様でございまして、この事例集では、案の段階でもお示しさせていただいておりますが、キーワード、背景、目的・ねらい、実施体制、メインターゲット、周知の方法、事業内容等を整備した形で提示しております。

おめくりいただきまして、4ページ、5ページは、この事業で使われているチラシを参考につけております。

また、6ページからは練馬区様の事例でございますが、同じように項目を整理した形で掲載しております。8ページには、この事業に参加した方のアンケート結果をまとめたものを参考につけさせていただいております。

その他も同じように事業の内容をまとめたものと参考資料という構成になってございます。

この事例集につきましては、ご覧いただきますとおり、それぞれの所管の連絡先やホームページ等も掲載しておりますので、なるべく多くの自治体で参考にしていただけるような体裁としてございます。積極的な活用をお願いしているところでございます。本日、改めて、ご覧いただいた御感想、あるいは各区市町村での活用状況等について御発言いただければと思います。よろしく願いいたします。

○**宮地部会長** 事務局から「区市町村における健康づくり事例集について」の御説明をいただきました。御質問、御意見等がありましたら、お願いします。

確認なのですがけれども、これは、一応、今年度の形としては完成して、それについての御意見をいただきたいということでもよろしいですか。それとも、今日の意見に基づいて改訂していくということか、どちらですか。

○**山下健康推進課長** 改訂は今すぐは予定はしてございません。

○**宮地部会長** もうこれでできているので、それについて御意見があれば、来年以降、アップデートしていったりする際の参考にしたいと、そういう御趣旨ですね。わかりました。よろしく願いいたします。

どなたか、委員の先生方からご意見ございますか。いきなりぱっと見せられて、ご意見をくださいということで申し訳ないのですが、例えば、御自身の地域の資料を改めて見て、意図するところが伝わっていないとか、そういうことがもしあれば、ご指摘ください。

この事例集を作るに当たって、気をつけたことは、1区市町村4ページの構成で作られていますけれども、最初の1～2ページ目は、背景、目的・ねらい、実施体制などの項目が全ての区市町村で共通してしまっていて、それぞれの区市町村の取り組んだことを項目に従って書いていただくことにしています。構造化された形になっています。残りの3～4ページは、主に区市町村がアピールしたいところを、パンフレットなどを自由に示していただいたという形式になっています。ですから、1～2ページ目を見ると、形式的にどのようなことをやっているのかがわかって、3～4ページ目は、実際の取り組みの様子が変わるという仕組みになっています。何か御意見ありますでしょうか。

では、倉橋委員。

○倉橋委員 今、部会長から説明がありましたとおり、項目を共通化してわかりやすくして、これを参考に事業を実施するような立場に立っている人にとって、活用しやすい編集にしてある。まさにそれは実現できているかなと思います。特に、キーワードとか、工夫、留意点など、実際にやるときにヒントになる項目を、確か、作るときに、そういうところを充実させておくことが、応用していただくために大切ではないかという議論をして作った記憶がございますけれども、そこら辺もうまく表現されているかなと思います。担当者からの一言なども、実際にやった人が生の気持ちといいますか、そういうところが入っていて、計画を実施する立場にとってみますと、参考になる資料に仕上がっているかなと思います。悪いところもいろいろあるでしょうけれども、とりあえず評価するべきところは、所期の目的どおりに、ある程度、目的は達成されたかなと思っております。

○宮地部会長 ありがとうございます。

倉橋委員、ちょっと追加していただきたいのですけれども、荒川区も出していただいているのですけれども、御自身のところを改めて見ていただいて、いかがですか。

○倉橋委員 他のところに比べて色使いが少し負けているなと思いました。

○宮地部会長 そうですか。担当の方はかなり手を入れていただいたりしているのですけれども、せっかくのアピールの場ですから、白黒もなかなかシックでいい感じですしけれども、他のところと比べて、こういうところが悪かったなというのをまた活用していただければいいなというところでもあります。

○倉橋委員 内容では決して負けているつもりはございませんけれども、見かけの色使いとか、そこら辺がちょっと不満な点がございました。

○宮地部会長 近藤先生、先ほど何か御発言を。

○近藤委員 確認ですが、聞き逃したかもしれないのですけれども、配付先と、特に誰に対して読んでほしいという意図でつくられたものかを教えていただけますか。

○山下健康推進課長 この事例集でございますが、区市町村の健康づくりの担当者に御参考になるようにということで、事例としても、他の自治体での参考にしていただけるものということで選んでおります。健康づくりの担当者が御自分の自治体で新たに事業をお考えになるとき、どういう対象者にどういった事業をやるかという場合の検討の資料になりますし、あと、実際にこれをやっている自治体の担当者の連絡先、あるいは補助金制度としてどういったものを利用されているか、こういったものを担当者として役に立つ情報ではないかということで選んでおまして、自治体向けということなので、余り一般都民向けということではないということでございます。

○宮地部会長 どうぞ。

○近藤委員 恐らく、担当の保健師とか、企画する側から見れば、すごくわかる内容だと思えました。若干気になることとすれば、効果とか、いろいろな形で表現されているのですけれども、例えば、11ページに参加者が何名とか、これはどれぐらいの効果なのかがわからないのですね。結局、対象者が何人いて、そのうち何人にできたのかとか、分母とか、割合としてのインパクトも見えるようにすると、もうちょっとイメージしやすかったかなと思います。それも、どこまで統一できるか難しいところですが。

○宮地部会長 そうですね。いわゆるリーチというか、どれぐらい、この施策でサービスを届けられたのかという視点ですね。こういう行政施策には、ある一つのひな形みたいなものがあって、いろいろなやり方がありますけれども、学術的にはかなり確立はしているのですけれども、リーチを定量的に評価したり、エフィカシーを定量的に評価したりといったことを一個一個の区市町村にしっかり取り組んでいただくということがまだなかなか進んでいないところで、ただ、その一歩目として、実数を挙げていただいたということなのではないかと考えております。でも、今後、先生の御意見を参考にさせていただいて、リーチを定量的に評価したほうが、あるいは効果を定量的に評価したほうがいいと思いますので、分母に対する分子として、しっかり効果を検証していくことも、PDCAを考えていく上では重要だと思いますね。

○近藤委員 基礎情報として、この事業の潜在的な対象者が何人いるとか、それぐらいの情報をつけ加えるだけでもいいかなと思うのですね。

○宮地部会長 そうですね。肥満者はこれくらい荒川区ではいそうだとか、あらあらの数字は出てきますものね。

○近藤委員 そうですね。詳しくやろうとすると、WHOがやっているみたいに、カバレッジとって、何%の人が介入の対象になったかとか、実際、それによって効果が得られた人が何人かとか、そういう考えはいろいろあるのですが、初めからそこは難しいとして、まずは何%ぐらい、対象のどれぐらいをカバーできたかなどというのは、データとしては見せやすいかなと思います。

○宮地部会長 ありがとうございます。

他に何かありますか。



では、事務局には、今、いただいた御意見を参考にしていただいて、来年度以降、こういったグッドプラクティスを少しずつ蓄積していくことはとても重要ですので、書式や形態は評価をいただいたところですから、1つでも2つでも区市町村を増やしていただければと思います。

では、もし御意見がないようでしたら、次に行ってもよろしいでしょうか。どうぞ。

○池田健康推進課長 本編のほうは統一した項目で見やすくされているのですけれども、添付の資料なのですけれども、例えば、16ページの杉並区は非常にビジュアルもよくて、興味をそそるのですけれども、何せ文字が小さいということなので、24ページの豊島区とか、32ページの品川区もみんなそうなのですけれども、これをA4に縮小するのではなくて、A3の折りとか、ちょっと工夫していただいて、ホームページでも見られるのでしょうかけれども、せっかくいいものを作っていただいているので、その辺をもし工夫できたらよろしいかなと感じました。

○宮地部会長 ありがとうございます。

非常に貴重な意見です。せっかくいい資料をつけてもらっても、私の老眼では見えないページが結構ある。できれば、そういうことも今後、課題にさせていただいて、十分見ていただけるようにしていくことが大事かなと。当然、たくさん情報を盛り込みたいというお気持ちはよくわかりますけれども、重要な御意見ありがとうございます。

他にありますか。ありがとうございます。では、次の項目に行かせていただきたいと思えます。

次の項目ですけれども、「パンフレット『健康の秘訣は仲間とのつながり（仮題）』（案）について」、タイトルも御検討いただかなければいけないのですけれども、事務局から御説明をよろしく願いいたします。

○山下健康推進課長 それでは、資料6-1、あと、資料6-2が①②③とございまして、その後の資料7、「パンフレット『健康の秘訣は仲間とのつながり（仮題）』（案）」を説明させていただきます。

本部会の開催前に、事前に委員の皆様には、パンフレット（案）及びウォーキングマップのひな形について、御意見、アンケートをお願いしたところでございます。御回答に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。いただいた御意見は、資料7と資料10、11にまとめているところでございます。これからの議論の際に、皆様の御発言とあわせてご覧いただければと思います。

それでは、資料6-1でございます。こちらは記載のとおりでございますが、住民相互の信頼感が高い地域ほど、自己の健康に対する評価が高いこと、地域のつながりを示す指標は住民の健康状態を示す指標と正の相関があるなど、地域のつながりが豊かなほど、住民の健康状態がよいことがこれまでも報告されてきているところでございます。

平成25年度に東京都が実施いたしました都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査、本日、机上配布資料6で報告書をつけてございますが、ページで行き

ますと、51、52ページ、あるいは56、57ページになりますが、地域におけるボランティア活動等のグループに参加している方や、地域とのつながりがある方のほうが健康状態がよいと感じている方が多いことは、この調査結果においても、これまでの御報告どおりの結果が出てございます。

その一方で、退職等により地域で過ごす時間が長くなる年代、60歳代を想定しておりますが、男性の地域における活動への参加状況は十分とは言えない状況ということもわかりました。そこで、地域で過ごす時間が長くなる年代になる前に、地域の活動への参加について意識を高めていただくため、地域活動に参加している方の体験談、活動の種類及び内容の紹介、グループや所管部署へのアクセス方法、地域活動への参加と健康との関係などをコンパクトにまとめたパンフレットを作成することにいたしました。

資料6-2の①②が、作成途中でございますが、パンフレットの案でございます。また、資料6-2の③に表紙のタイトルについての案の一覧をお示ししてございます。内容等につきまして御意見をいただければと思います。

資料6-2の①をお開きいただきますと、2ページに本日御出席いただきました大崎さんのインタビューから作成したものがございます。また、3ページには豊島区の吉田さんと守屋さんのインタビューに基づいて作成したものを入れてございます。4ページが地域とのつながり方についての選択肢といいますか、御紹介でございます。5ページからが各区市町村における健康づくりの窓口、おめくりいただきまして、生涯学習・社会教育等の所管の連絡先、また、7ページ目がボランティア活動の窓口として、各自治体の社協の連絡先を入れてございます。最後、裏表紙、8ページのところに、「最初の一步を踏み出してみませんか？」というメッセージとともに、QRコードを掲載予定でございますけれども、東京都のポータルサイトのホームページにより詳細な情報を載せる予定でございます。こちらへ検索方法を載せてございます。また、健康寿命についての御紹介と、主観的健康観と地域活動の状況についての、先ほどの報告書から抜粋したデータを掲載しております。

構成としては以上でございますが、このタイトルを含め、本日、御検討いただければと思います。

また、対象年代の方へこの趣旨をお伝えするに当たり、配布ルート、配布の機会などの可能性についても御意見をいただければと思います。このパンフレットとしては、基本的には現役の働いていらっしゃる方向けと考えておりますが、内容や趣旨の伝達に際しまして、自治体から関わっていただける可能性等を含め、御意見いただければと考えております。

説明は以上でございます。よろしく願いいたします。

○宮地部会長 ありがとうございます。

事務局から、「パンフレット『健康の秘訣は仲間とのつながり（仮題）』（案）」についての説明がありました。昨年、報告書をまとめました机上配布資料6ですけれども、都民の健康や地域とのつながりに関する意識・活動状況調査の結果を活用して、つながりという

ことにフォーカスをして健康づくりを進めていくための資料ですね。一応、地域部会から、地域の住民の方を対象とした資料を作成しようという意図でつくられたものです。恐らく職域においても、こういったものを使っていくことができると思いますし、今後、発展性のある資料だと思います。このつながりに関するパンフレットのあり方について、御意見をいただきたいと思います。先ほどの事例集に関しては、もう完成しているのですが、これについては、今後、形を整えていくものですから、今日のひな形は、30%、40%のレベルですので、100%に近づけるための御意見をいただきたいということでございます。

先ほど課長からも御説明があったのですが、この調査、一昨年、昨年かけて、相当大規模に東京都でやっていただきました。特に地域のつながりにフォーカスを置いたのですが、東京都においては、つながりに関しては西高東低の傾向があり、区部よりも市部・町部・村部の方がつながりが強く、健康自己効力感、自己健康感が高いことがわかったということです。

自己健康感などが何の役に立つのかというのが、今から10年前、20年前の意識でしたけれども、昨今の健康寿命、生活の質という視点から健康を見ると、自分が健康だと感じているということが極めて重要視されつつあります。

また、そのことが、個々人の体の機能、病気であるかないかだけではなくて、地域や家族、あるいは仲間とのつながりが大きく影響していることも、これは近藤先生が専門にされているところだと思いますが、重要だと言われております。こういった取組を自治体で進めていくことは画期的だと認識をしていますので、今日は御意見をいただきたいところです。これはターゲットはあくまでも住民の方だということですから、そういった視点で御意見をいただければと思います。

ざっと見ていただきましたけれども、どこから行きましょうか。タイトルを最初に議論していただいて、方向性がそれで見えてくるのではないかと思います。今、第1候補のタイトルが「健康の秘訣は仲間とのつながり」、あるいは資料6-2-②を見ていただくと、ちょっと砕けていて、「あらかん！アラ還（60歳前後）世代のための健康読本」とか、あるいは資料6-2-③を見ていただくと、「健康の秘訣は地域とのつながり」「健康の秘訣は仲間とのつながり」「さあ地元デビューしよう～地域でみんなでイキイキ～」とか、ずらっと並んでいます。実は、タイトルいかんによって、読んでもらえるものなのか、ごみ箱にぱっと捨てられるのか、大体決まると思うので、先生方の御意見いただけますでしょうか。

○近藤委員 よろしいですか。

○宮地部会長 どうぞ。ここは近藤先生の意見を聞かないといけない。

○近藤委員 すみません、まず確認をさせていただきたいのですが、これは業者とかと一緒につくってきたコンテンツなのかということと、あと、ターゲットはアラ還世代ということなのですかけれども、見た感じ、特に定年退職を目前にした男性ですね。定年後、家庭

にこもってしまうようなことを予防するという雰囲気が伝わっていて、それはすごくいいなと思ったのですが、その辺のコンセプトについて、いま一度確認させていただきたいと思います。

○**山下健康推進課長** まず、「アラ還」という言葉も、60歳という、一般的には定年になる年代を境に、それまで職場で主に過ごしていた方が地域に戻っていく。現役のときには、東京の場合ですと特に、職場と住んでいるところが離れている方が多い。そうすると、自分の住んでいる地域にどういった活動場所とか、活動しているグループがあるかということに現役時代に余り関心を持っていない方が多い。そういう状況がございますので、突然、定年退職等を契機に地域に戻ったときに、どうしていいかわからないという話をよく伺うところがございますので、退職前から地域に関心を持ってもらう、そのためにどういう取っかかりがあるかといったことを紹介できるようなパンフレットがあるといいのではないかとこのところでございます。

業者と何かやっているかということであれば、②の表紙のデザインは業者にやってもらったものでございます。あと、中のほうも少しデザインを工夫したものを提示いただいておりますが、コンテンツそのものは私どもで取材した内容をもとに入れているものでございます。

以上でございます。

○**宮地部会長** 業者には見栄えなどは直していけるけれども、コンテンツに関しては、基本こちらで考えて、キャッチコピーなどは業者にお手伝いもいただくという感じかな。

○**古川健康推進課課長代理** そうですね。タイトルの一覧に示しているものは、業者の方がお示しくださったものも含まれているという状況です。

○**宮地部会長** ということでございます。

近藤先生、過去の、日本でなくても構わないのですけれども、行政の取組で、こういったつながりを重視したら、健康水準が上がりましたよみたいな、先行事例とか研究というのはあるのですかね。

○**近藤委員** 高齢者ですと、いわゆるサロン事業ですね。地域の集いの場を提供することでボランティアも参加者も元気になったというのは、先日、うちの研究メンバーで出したのがあるのですけれども、それはあるのですね。定年間際の世代に、定年退職を迎える前からコミュニティーでつながることで健康を維持できる。確かに定年の効果はすごく難しく、まさに世界中で研究が進んでいるところなのですけれども、いずれにしても大きなライフイベントなので、リスクではあるのですね。それを円滑に、仕事から地域、コミュニティーへシフトするときの介入というのは、いろいろされているとは思いますが、大きく効果があったというのは、今、思い出す範囲ではわかりません。

○**宮地部会長** では、かなり画期的な取組。

○**近藤委員** 着眼点としては、労働経済などでもよく言われている話で、研究はされていますけれども、介入という点では、ここに絞ったのはおもしろいと思います。みんな何か

やりたいと思っていることは確かなのですね。ボランティアやりたいなどと思っている人もいるのですけれども、それを見つけ出すのが難しいというのが結構あるのですね。

これは私が研究と一緒にやらせていただいている千葉大の近藤克則先生から聞いたのですが、大体、定年して2年ぐらいは自分の好きなことをわあっとやる。2年すると大体やり尽くして、暇になってくるのですね。そこで、62歳、あるいは定年して2年ぐらいたった方々に、健康調査、それは介護保険事業計画を立てるための調査とかですけれども、そういう調査の中で、まちではこういうボランティアを募集しています、興味ありませんかと率直に聞くと、何割かは興味あると書くのです。そういう人にピンポイントで連絡して、ボランティアやりましょうというふうにして、サロン事業とかをやるボランティアを確保して、やりたいほうも、マッチングがうまくできたという事例があります。まちづくりと健康づくりが一緒にできたというような、そういうターゲット戦略もいいかなと。

○宮地部会長 なるほど。では、50歳代、60歳代をターゲットにするというのは、ちょっと幅広いけれども、一つのやり方。

○近藤委員 注意喚起としてはいいかもしれないですね。懸念するとすれば、健康、健康というのがかなり前面に出ているので、健康に不安があったり、そこに関心がある人にとってはかなりいいと思います。ただ、これだけだと、今、仕事まっしぐらで、自分は健康で大丈夫だと、健康維持・増進にそんなに関心がない方へのメッセージにはならないと思います。そもそも生活が困窮して、健康自身に、ある程度長いスパンで見ても、興味ない方という方は一定いますので、そういった方には別のターゲット戦略が必要なのだろうと、健康格差の観点からは特にそう考えます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

最後の、健康にばかりフォーカスしてしまうと、50歳代、60歳代の中の一体どれだけがこれに食いついてくるのだというのは、ちょっと盲点でした。僕ら、この部局にいるので、それで注目するのだけれども、実際に100人の55歳のお父さんたちにこれを配ったときに、健康に自信満々のお父さんたちは、別に、となってしまう。それが何割いるのかを頭に入れてつくっておく必要がありますね。

○近藤委員 実際、健康に関心ある方は必ずいるので、いいとは思うのですけれども、できればマーケティングの戦略を使って、これで効く人たちは誰か、これが効かない人が何%ぐらいいるのかとか、そういうマーケット調査をしたほうがいいかなと思います。東京都ですから、他の国では一つの国ぐらいの規模がある自治体なので、そのぐらいお金使ってもいいのではないかと、ふと思ったりもします。

○宮地部会長 この部数はどのぐらいを考えていますか。

○山下健康推進課長 今のところ、印刷予定としては、予算上、3万8,000部です。

○宮地部会長 ということは、配れる人は限られているということだね。だから、3万8,000部だったら、その3万8,000部を、健康というテーマだったら誰に配ったらいいのかというストラテジーをここで考えておく必要があるということですね。あるいは、

今、先生が言ったみたいに、より多くの人にリーチしようということであれば、3万8,000部では予算上足りないことがわかっているので、逆にぐっとフォーカスをして、3万8,000部のターゲットがどこなのかを、今のうちから地域の御意見を聞いておくというのも一つの手なのかなと思いますね。

○近藤委員 1つは企業で配ればいいのかと思うのですね。

○宮地部会長 そこがすごく大事なのですよ。先生も、そう思うでしょう。ここは地域部会だけでも、ぜひ職域部会の御意見も聞いていただいて、職域でどう配られるのか、あるいは職域でどんな人をターゲットにできるのか、特定健診、保健指導でメタボの人に配ってみるとか、ハイリスクの人に配ってみるとか、そういうことが実際できるのか考えていただいて、配るチャンネルを広げることを検討していただければ良いですね。まず、地域だったらどんなチャンネルで、どんな人に配られるのか。3万8,000部ということになると、都の区市町村、幾つでしたか。

○寺山健康推進係主事 62区市町村です。

○宮地部会長 62区市町村ということは、1区市町村600部。企業に幾つか回すとなると、300部とか200部とかという感じですね。そんなにリーチはできないですね。当然、ホームページだったり、携帯だったり、そういう媒体も使えるので、もう少しリーチできると思いますけれども、まさにターゲットを絞ることがすごく重要ですね。

○近藤委員 大きな企業であれば、こういうコンセプトを伝えて、独自に作ってもらうというのは可能ですね。産業医もいますし。私も産業医をやっていますけれども、個別の面談で、50歳代、60歳代近くの方と、定年の後、心配ですよねなどという話をすると、こういう話になるのですね。言えば通じるので、大企業であれば産業保健担当者がこれを参考に、独自に普及・啓発してもらうというのは可能なので、3万部をそこで使ってしまうと全部なくなってしまいますので、それは別の戦略を立てることができるのであれば、配る分はもうちょっと別のなのでしょうね。公共施設とか何か、そういう。

○宮地部会長 そうですね。地域の中で、あるフォーカスした人たちに配ってもらうチャンスがある程度工夫してもらう。そこはどこなのか誰なのかはある程度指定してあげたほうがいいかもしれないですね。どんな機会がありそうですか、地域ですと。

○内野委員 アンケートには、やはり役所の窓口や保健相談所、一般的に、置いておけるところということで書きましたが、今、お話を伺いますと、ターゲットを絞っていただくというのが、部数との関係で必要かと思います。考えていただきたい方に届くという形にしないと、なかなか難しいかなというところがあります。私どもも健康づくりの事業をするときにも、ターゲットにどのように届けるかというところが、今、すごく大きい課題になっていまして、この事例集の中にも入れさせていただいたフィットネスクラブでの40歳代、50歳代ぐらいの層へなかなか届きにくいということで、昨年度、学校のPTAを通じて周知したところ、かなり効果があったということもあるので、配り方というのは非常に大事なのだなというところがあります。働く世代に対しての健康づくりというのは、

これも一方ですごく大きい課題でありまして、こういった手だてと一緒にのっかっていけるような、そんな糸口ができるかなと、今、お話を伺いながら思ったところがあります。

○宮地部会長 日の出町さんですと、職場が遠くて、離れた日の出町にまた戻ってくるというパターンだと思うのですけれども。

○関根課長補佐 そうですね。この年代の方は庁舎に来庁する機会は非常に少ないかと思うのですね。社会保険で会社のほうの健診ですので、健診機会もないし。ですので、配るとすると、町の何かのイベントのときにとということになるのですけれども、それだと特定ができなくて、部数が無駄になってしまう。庁舎等に配置をしておくことは可能ですが、その年代に届けるというのは非常に難しいところかなと思います。

○宮地部会長 例えば、特定保健指導の対象になった60歳以上の、今までは職場で、健保で特定健診、特定保健指導等を受けていたけれども、地域の最初の特定保健指導を受けに来たとか。特定健診だと健康な人たちもいますけれども、保健指導だとハイリスクですね。そういうところに最初に来てくれた人に重点的にこれを配ってしまうみたいなストラテジーが一つあるかなと思いました。

あと、もう一つは介護保険の絡みですね。65歳になって初めて基本チェックリストを送って、調査対象になったような人の中で、ハイリスクの人に対してお渡しするなど、行政の事業にマッチングさせて、ターゲットを絞って配れば、二度手間にならないような気がします。配り方のアイデアみたいなものを工夫することが重要かなと思いました。

今、大きな話をしていたのですけれども、タイトルですね。先ほど近藤先生から、健康ということを中心に前面に押し出してしまうと、いまひとつ食いつきが悪いかもということで、そういう意味では、「イキイキ！おやじライフ」とか、「アクティブ・オヤジライフ」とか、「オッ、サンか？」みたいな、健康だけではないタイトルもあります。今日、ここで、これだと決める必要はないのですけれども、どうでしょうか。

○倉橋委員 男性がターゲットでいいのですかね。

○宮地部会長 そこなのですね。

○倉橋委員 主なターゲットは男性だと思うのですが、それだけでいいのか、それを承知で男性ターゲットに絞るのかというところがまずありますね。

○宮地部会長 これはどうですか、事務局。女性でも働いている方は増えていますが、女性は働いていても地域とのつながりが結構あるのですね。

○倉橋委員 一般にそう言われますから、それを承知の上で男性にターゲットを絞りましょうかという、まだその議論していないので。

○宮地部会長 そうですね。でないと、「健康オヤジ」とか「オッ、サンか？」とか、あり得ないですね。

○倉橋委員 そうなのです。

○宮地部会長 基本、男性をターゲットにしているということによろしいですか。

○山下健康推進課長 そうですね。調査結果のほうも、男性のいろいろなグループとか、

ボランティアの参加率が、女性に比べると、60代、明らかに性差がありますので、そのあたりで、重点をということで行くと、やはり男性にとらうかと考えております。

○宮地部会長 男性という方向性で考えていきましょうか。

○近藤委員 であれば、健康の秘訣はいいのですけれども、仲間とのつながりというアプローチだと、ちょっと敬遠する男性が多いのではないかと。女性ですと、おしゃべりしましょう、つながりましょうで集まるのですけれども、男性の場合、言い方は悪いですが、女子供が集まるようなところには行けんと。サロン事業に男が来ないのと同じジレンマなのですね。では、どうやったら来るかといったら、やはり出番とか役割があることが必要で、そういう意味では、あなたの次の出番は会社ではなくて地域ですよとか。

○宮地部会長 役割感。

○近藤委員 役割とか、そういうメッセージが伝わるほうがいいのかなと、今、ぱっと出たアイデアですが。「アラ還」はいいかなと思います。これは、そういう意味では、ちょっと何か。

○宮地部会長 女性っぽい。なるほど。

○近藤委員 微妙だなと思いました。

○宮地部会長 私が「つながり」という言葉に最初こだわったもので、一案が出てきたのだけれども、論点を整理してくると、意外とそうでもない感じがしてきますね。

○近藤委員 目的はそうなのですが、攻め方として。

○宮地部会長 攻め方としては、「つながり」という言葉を使う必要はないということですね。

○近藤委員 どうなのかというところです。

○宮地部会長 だと思います。先ほど、近藤先生がぱっと言ったのが、すごくおもしろかったのだけれども、何と言いましたっけ。

○近藤委員 出番は地域にありみたい。出番とか、役割。

○宮地部会長 次の出番は地域にありみたいな感じですね。

○近藤委員 次の出番はどこかみたいで、地域の中の出番のリストを紹介する。被災地のほうで、被災された男性は仕事がなくなってしまっていて暇になってしまっていて、閉じこもっているのを出てもらいたいというので、成功したのが、将棋とか囲碁の教室で、子供に教えてくださいとやったら、出てこない人が出てきたというので、結構広がったみたいなのですね。

○倉橋委員 その番組ありましたね。

○近藤委員 ああ、そうですか。ちょっとまた聞きなのであれなのでも。

○倉橋委員 たしかNHKで見ました。

○近藤委員 そういう情報提供ができるといいのかなと。

○宮地部会長 実際に地域ではどうですか。高齢の男性が何かに出てくるのは。

○大崎氏 では、退職者の私がお話しします。今、ボランティアをいろいろやっていて、



今日こういった会議があるということで、2つのボランティア仲間に、ボランティア、地域活動に入った理由を尋ねてきました。

1つは、東京消防庁の災害時支援ボランティアの場合で、男性が多いところです。当日は、13人の参加者がいて①仲間とか、関係者に誘われて、例えば、会社の先輩だったり、あるいは救急救命講習を受講した時、消防署員に入ってくれないかと誘われた方が4人。②自分や家族が救急救命でお世話になって、恩返しをしたいという方が2人。③自分が救急救命の知識とかがあって、積極的に地域でやってみたいといったポジティブな方が2人でした。

それから、もう一つは、地域健康づくり公募推進員の場合で、逆に女性が多いところです。こちらでもやはり仲間からの誘いが結構多い。地域であの人から誘われたから行ってみようと。それから、はっきりはしないのですが、生活の大きな変化、例えば、パートナーが亡くなったとか、あるいは介護とかで、家にいたらとても大変で、気分転換も兼ねて参加するようになった方もいるようです。

○宮地部会長 ありがとうございます。

貴重な意見ですね。やはり役に立ちたいというのがキーワードですね。恩返しとかですね。そういった言葉をうまく使ったタイトルを考えていただいて、健康ということばかりではない方向でまとめる戦略で、一度御検討いただけますか、タイトルについてね。今、ここで決める必要はないので。

○山下健康推進課長 ありがとうございます。

○宮地部会長 では、タイトルはひとつ方向性が出て、よかったです。中身を見ていただきますが、事例が2つ用意してあって、さらに4ページに行っていただくと、どこにつながりますかということで、家族や親戚、友人、地元、趣味と書いてあります。ここもやはり役立つ感を少し前面に出してもいいかもしれないですね。例えば、家族や親戚も、夫婦や子供、孫たちと出かけることもあるけれども、孫の面倒を見てみるとか、孫に何かを教えるとか、役割感を少し前面に出してもいいかもしれないですね、今のコンセプトからすると。

それから、シルバー人材センターで働くとかというと、あたかも年寄り扱いみたいな印象です。世の中の推進力になって生産性を発揮するのだと。例えば、消防団だってそうですね。給料の多寡ではないのですね。役割が高いのだというイメージなのかな。シルバー人材センターだと、半分ボランティアのようなイメージで、それも入れていただいてもいいけれども、そうでないことも入れてほしい。それから、趣味のところ、フィットネスクラブとか、カルチャーセンターに行くというのも、テーマとしていいけれど、それだけではないですね。私、今年50歳になったのですけれども、春からラグビーを再開しました。36歳で実業団のチームを引退したので14年ぶりですけれども、肋骨にひびが2か所入ったし、肉離れも2回して。下手くそなのだけれども、仲間が、そんなに怪我しても頑張ってくれるから、宮地さんと一緒にやるのが楽しいと言ってくれるのですよ。そうす

ると、責任感がだんだん出てくる。ラグビーは一つの極端な例ですが、若いころやっていたことを、こんな年になってできないとあきらめているのだけれども、そうではないということです。囲碁とか、もう少し健康づくりから目線を離して。けれども、それで仲間ができたりするのですから、視点を幅広く持って、修正していただけたらと思いました。

○近藤委員 町内会とかは、仕事をしているときから、あそこには関わりたくないと言っていて、それでも志ある方は来てくれるとは思いますが、もうちょっと緩いつながりの趣味の会とか、ボランティア、うちの父などは竹林の整備のボランティアを楽しくやっているみたいなのですけれども、いろいろやって、ようやくそこに落ち着いたみたいで、そういうところでちょっと役割を持つということをやりたいと思うのですね。お祭りとかがあれば、当然そういうのもいいとは思いますが。

○宮地部会長 お祭りは重要ですね。年に1回のことだけれども、そこに行くまでの準備だったりとかもありますし。

○近藤委員 そうですね。だから、地元などというところに、もうちょっと他のオプションがあってもいいのかなと思います。本当はそこは各地域個別の話なので、都が作るパンフレットとしてどこまで踏み込めるかは難しいですかね。

○宮地部会長 でも、今のはちょっと健康に傾き過ぎているイメージがあります。あくまでも健康なのだけれども、視野を広げてみようということです。男性目線になっていただいて。

内容なのですけれども、さらにそれに加えて、区市町村の健康づくりの窓口だったり、生涯学習だったり、ボランティア活動のチャンネルを書いていただいて、ここに電話してみれば何か情報が得られますという、これはあっていいところだと思います。当然、見やすくしていただく。

最後の面を見ていただきたいのですが、8ページ目、「最初の一步を踏み出してみませんか？」とか、あるいは「健康寿命をのばしていつまでもイキイキ」とか、学問的なことだったり、ファクトだったり、そういうことをしっかりとここで書く、根拠ですね。都のパンフレットですから、こういう説明はあったほうがいいと思います。「健康寿命」という言葉にフォーカスするかどうかは少し考えてもらってもいいかもしれないですね。先ほど先生から説明していただいたように、つながりが健康を促進するのだということをもう少し丁寧に説明するとか、都の調査ではこういう結果になっていますということですね。なので、内容について、もう少し精査してもらったほうがいいと思いました。

事例はこれでいいと思います。いかがですか。では、時間もかなり使いましたので、そういう方向で、ぜひ事務局で再検討していただくということ。職域の部会とも相談をしていただいて、職場で配れるチャンネルがあるか検討していただいて、それに耐えられる内容にしていただくことも考慮に入れていただきましょう。

○山下健康推進課長 すみません、先ほどの部数の件で訂正がございまして、予算上は実はもうちょっと少ない数だったのですけれども、先月、7月15日の職域の部会でも、こ

ういったパンフレットを作成予定ですということで御紹介して御意見いただいたところ、意外と職域の中で配っていただける可能性があるということで、少し多目に作成しようかなというところがございまして、今、3万8,000部を検討中ということでございまして、ただ、予算の制約がございまして、実際、何部作成できるかは、本日いただいた御意見ももとに考えていきたいと思っておりますので、部数のほうは未確定ということで。

○古川健康推進課課長代理 あと、もう一点よろしいですか。職域部会で議論した際に、退職前の年金セミナーみたいなことであるとか、あと、退職金共済会みたいなものを企業団体が持っていて、そういう場で配ることもできるのではないかという御意見をいただいたところでは。

○宮地部会長 なるほど、非常に有効な方法だと思います。やはり職域との連携は外せないと思います。2つ作るわけにはいきませんから、地域と職域と両方にうまく使えるものを作るという発想でもう一度見直していただくということで、よろしく申し上げます。

どうぞ。

○池田健康推進課長 例えば、こちらの4ページ、何をしてみたいですかというピンクのところですね、自分の趣味や特技をさらに伸ばしたい。緑のところ、自分の技術や資格などを生かしたい。ここは非常に似ている。部署が生涯学習部門とボランティア部門ということなのですが、私はこれをぱっと見て、言っただけでは悪いですが、非常に無駄な、無駄なというのは、5、6、7、行政機関の窓口の一覧表が載っていますけれども、これは3ページです。一番後ろに各広報紙やホームページが掲載されていますとあるので、例えば、健康づくりと生涯学習、社会教育、ボランティアということで、各自治体の窓口にお問い合わせくださいということで済んでしまうのかなということで、もし私が何かやってみようかなと、自分がこういう特技があるから、生かす場所がないかなといったときに、私はこんなものを見て電話しません。何をするかというと、やはりホームページを見て、ああ、こういった部署でこういう活動があるのだなと。もう少し具体的に知った上で、では、どこに問い合わせするのかなということで、この3ページというのは余り効果がないのかなという意見です。

私は初めて来て、こんな意見を言ってしまうとまずいのかなと思うのですが、それよりも、健康寿命を延ばして、最後のページですね、こういうデータなどをもう少し盛り込んで、危機意識を持ってもらうというか、こういうことをすれば、こういうふうには効果があるのだなということで、もう少し有効利用したほうがいいのか。お話に出たとおり、こんなものを行政の窓口にしても見ませんから、企業の福利厚生とか、退職関係のところにも配布してもらおうほうが有効的だと思うので、それはどんどん推し進めてほしいなと思います。いいものを作ろうという都の姿勢はよく感じられるので、無駄と言っただけは申し訳ないですが、もう少し工夫できるところは工夫したほうがいい。

○宮地部会長 私もそれがちょっと気になった。1ページで1行だけなのですね、一人の読者にとって役に立つのは、けれども、1ページ使っている。都のURLとか、何々で検

索みたいな。本当はそれがあつたほうが、今の50歳代、60歳代は情報世代で合理的なので。そうすると、これがぼんとなくなってしまうと、半分になれば、より多く印刷できますので、リーチが高まります。そういうことができるかももう一度検討していただきましょう。70歳代になってくると、電話世代だったりするので。

○池田健康推進課長 そうですね。50、60歳はパソコン使えると思うのですね。

○宮地部会長 そうですね。今の50歳代、60歳代なら、携帯、パソコンが使えるので、例えば、このタイトルで、キャッチになるようなもので、何々で検索というと、東京のそのページにびよんと行くような形にしておくというのももう一つの手かもしれないですね、今の時代でしたら。そこまで考えていただいて、最後の3ページ分、どうするのか、ぜひ御検討ください。

○倉橋委員 私もそう思います。余ったページをもし有効利用するのであれば、何をしてみたいですかというところの、例えば、趣味や特技、さっき囲碁や将棋の話が出ましたね。そういう簡単な事例集を、例えば、どこかの自治体では、こういうボランティア活動の種類がありますとか、趣味・特技のサークルとしては、こんな種類があつて、実際、定年間際から活動された方が多数いますとか、あつ、俺もやってみようかなというきっかけになるようなものを書いたほうが、むしろ有効だと思いますね。

うちの区で言えば、大代表にかけて、どこそこと言うと、そこに転送しますので、電話番号を載せるとしても1つで構わないと思います。載せる意味は私も少ないと思います。

○宮地部会長 ありがとうございます。

○近藤委員 これはできるかわからないのですが、例えば、はがきをつけて、やりたいことを書いて投函したら、コンサルから電話が来る。そうするとばっちりいきます。

○宮地部会長 そうすると、どれぐらいリーチしたかが実は計算できてしまうのですね。

○近藤委員 3万部配つて、最大でも1,000人ぐらいではないでしょうかね。それぐらい対応できる窓口が作れるのであれば、そういうほうが懇切丁寧になるかなと思ひましたね。

○宮地部会長 そうですね。それも一つのアイデアだと思います。できるか、できないか、検討していただいて、限られた予算の中で最大効果を出すのが使命ですから、よろしくお願ひいたします。

やはりこれぐらい時間かけないと、アイデアが出てこないですね。ちょっと今日の御意見を取り入れてください。ありがとうございます。ちょっと時間が押しましたので、次の議題に行きたいと思ひます。

続きまして、議事「(4)ウォーキングマップ(ひな形)の作成及び活用について」、事務局から御説明をお願ひいたします。

○山下健康推進課長 それでは、「ウォーキングマップ(ひな形)の作成及び活用について」、御説明いたします。資料8「ウォーキングマップ(ひな形)の作成及び活用について」です。

最初に「背景」でございますけれども、記載のとおり、東京都では、「東京都健康推進プラン21（第二次）」を平成25年3月に策定し、都民一人一人が負担感なく実践できる生活習慣の改善の普及を目指しているところでございます。また、東京都長期ビジョン、昨年末に策定いたしました、2020年のオリンピック・パラリンピック大会を契機に、都民がスポーツに関心を持ち、行動する機会をさらに拡充し、適切な身体活動量として1日8,000歩以上確保している都民を増加し、健康増進するとしております。2020年大会を契機に、身体活動（スポーツ）について機運醸成を図る動きがございます。

そこで、「目的」に記載してございますが、プランの重点分野別目標の一つであります「日常生活における身体活動量（歩数）を増やす」ため、健康づくりの視点を取り入れた「ウォーキングマップ」のひな形を作成し、このひな形を区市町村へ配付し、ひな形に準じた自治体版のマップ作成を支援することといたしました。このマップの活用を促すことで都民の身体活動量の増加を目指すものでございます。

実際のマップのひな形でございますが、資料9-1にA3を折り畳んだものがございます。既に区市町村様に対しまして、6月、7月の課長会等で説明させていただいておりますけれども、折り畳んだ状態でウォーキングの効果のところが最初にご覧いただきまして、開いていただきますと、ウォーミングアップ、クーリングダウン、靴の選び方、靴のはき方、ウォーキングフォーム、水分補給といった、ウォーキングマップの要素として重要なところを記載してございます。

地図はダミーでございますけれども、全体図とA、B、C、D、4つのコースを概略示したものを2カ所に掲載してございまして、開いた状態ですと、左下にコース概要、歩数、時間、消費カロリーの目安が記載してございます。

このひな形とあわせまして、資料9-2として「ウォーキングマップ作成ガイド」も一緒にお送りさせていただいております。ウォーキングマップの作成経験がない担当者の方でも、このひな形をもとに作成していただけるようなガイドとしてございます。掲載内容の留意点等は4ページに記載してございまして、参考資料等も5ページ目に記載してございます。

なお、作成いただきましたマップは、PDFファイルを東京都のホームページ「とうきょう健康ステーション」で広く紹介させていただく予定としております。自治体の住民だけではなく、広く都民、さらに他の道府県等からいらっしゃる方が各区市町村を訪れた際にも手軽に利用できるようにしたいと考えているところでございます。

マップのひな形については以上でございます。積極的な活用を図っていただければと希望しているところでございます。よろしくお願いたします。

○宮地部会長 今、事務局からウォーキングマップのひな形について説明がありました。もう既に自治体に配付して、こういうものを作ってくださいとお願いしているものです。恐らくもう取り組んでいる自治体、まだだという自治体もあろうかと思っておりますけれども、今後御質問が都に来たときに、よりよいアドバイスを担当の方にさせていただくための御意

見をいただきたいというのが趣旨であります。このマップそのもののひな形、それから、マップ作成ガイドの2つの資料がありますけれども、これに関しまして御意見があれば、ぜひお聞かせください。

このマップの作成に関しては、補助金が出るのですね、それぞれの自治体に対して。

○山下健康推進課長 私ども、いわゆる包括補助事業の中で自治体独自の取組を御支援しておりますけれども、そのメニューの中でも、このウォーキングマップの作成に関しては、やり方にもよりますけれども、10分の10の補助となるものと、単独で作る場合には2分の1補助という形になりますけれども、2種類のメニューの中で対応したいと考えております。

○宮地部会長 すばらしいですね。

○山下健康推進課長 マップに関しては、事前のアンケートは資料10で、いただいた意見をまとめてございます。

○宮地部会長 事前に御意見をいただいているところでもありますけれども、改めて何かマップについて御意見ありますでしょうか。

実は、厚生労働省では「アクティブガイド」という、A4を三つ折りにしたものを作っております。例えば、長野県はそれを参考に「ずくだすガイド」といまして、「ずくだす」は「精を出す」という意味ですけれども、長野県版をつくってくださったり、群馬県は群馬県版をつくっていただき、あるいは自治体だけではなくて、いろいろな団体が自分たちの運動のやり方をフォーマットに従って作っていただいています。

厚労省の場合は、全く予算措置せずに長野県が独自にやってくれているわけで、非常にありがたい話なのです。これは予算措置があるということですから、できれば全ての区市町村に作っていただいて配っていただければありがたいと思いますが、何か御意見ございますか。

かなり身体活動分野に限った、フォーカスされた仕事で、実際にもう既に取り組み始めていますという区市町村はいらっしゃるのですかね、今日の委員の中では。どうぞ。

○内野委員 練馬区ですが、アンケートのほうでも、今、区内2地区で検討を始めたところで、具体的にどの辺までというのは把握はしていないのですけれども、課長会でも山下課長から御説明をいただいて、補助のお話もいただいておりますので、乗りたいなというところはあります。

改めてひな形を見ますと、区全体のところで幾つかコースをというイメージでいただいているのですけれども、うちのほうも結構広い地域になりますので、その中の2地区でやることが補助対象になるかどうかというところも含めて、今後、進めていきます。

その2つというのが、1つが、町会で昨年度、国民健康保険の特定健康診査結果をもとに、この地域の状況をデータをもとにお返しして、こういうところがもうちょっと、健康のためにはこういうことをやったほうがいいですねというような会を開催し、栄養士、保健師が町会と連携して事業をやりました。そういったところの、もうひとつ上の作業とい

うのですかね、取組として、こういったものも一緒に考えて作っていき、地域と一緒に  
なって作ってみようと考えています。

もう一つの地域は、精神保健のほうで、精神の病院、医療機関がある地域で、そうした  
方々が引きこもらず、出てきていただく手段として、マップを使えないかという検討をし  
ています。具体的にここに乗るかどうかというところもあろうかと思うのですが、  
できればそういった形にしていきたいと思っている状況でございます。

○宮地部会長 こうでなければいけないということはないので、各区市町村の御意向とか、  
地域特性に合わせて、どんどん活用していくという方向で考えていただければと思います。

他に何か御意見ありますか。どうぞ。

○近藤委員 このマップは結構独自にやっている自治体も多いと思うのですが、健康だけ  
ではなくて、その地域の名所とか、よさをアピールするような面で、私の知っている事例  
だと、静岡県の三島市などは、三島駅からの歩くルートをアプリに載せて、近づくとも  
名所がスマホに出てくるとか、「自然と健康にする戦略」をやっているのですが、例えば、東京  
でもそういう雰囲気、自治体がもう既に作られているところは進んでいるのでしょうか。

○山下健康推進課長 マップの作成状況も、平成25年度にいろいろと自治体様のほうに  
お問い合わせしまして確認しましたところ、観光マップ的なものは作られているとい  
うところはございます。ただ、その場合、必ずしもウォーキングコースが設定されてい  
るわけではないので、見どころをたどっていくと、そういうコースになるかと思  
うのですが、そのマップを、例えば、今回のひな形にうまく入れ込んでいただくこと  
によって、健康づくりの視点からのマップというふうにつくり変えていただければ、  
これも補助対象と考えておりますので、既存のマップの活用というところも一つのやり  
方だろうと考えております。

○宮地部会長 決して健康のために歩くだけではなくて、神社仏閣めぐりで楽しみまし  
たというだけでも構わない。それをやることによって健康になりましたでいいです  
から。実際にはほとんどの区市町村が観光マップ的なものは作っているのです。

○近藤委員 私は町田市に住んでいるのですが、隠れたいい場所があると思うので  
すね。2キロメートルで歩ける範囲とかで。そういうのはジョギングしながら、たま  
に、へえ、こんなところに神社あったのかとか、見つけられるのですが、そういう  
のを紹介して、毎回同じルートではつまらないのでというふうにするとおもしろ  
いかなど。継続のインセンティブになりますね。ただ歩くだけでなく、楽しみ  
ながら歩きましょうとなると、当たり前過ぎて、あえて言う必要があるのかなど。

○宮地部会長 いやいや、そういうのも大事だと思います。だから、空欄になっ  
ていたりしますが、桜の名所で、この季節にはすばらしい何々が見られます  
とか、ペケペケ神社、こういうゆえんといわれがありますとか、ホニャララ並木も  
樹齢何百年ですとか、そういったことを入れていただく。単に健康だけのた  
めに歩こうという時代ではないですから。観光インフラの紹介と健康との融合  
であったり、いろいろなことを考えていただく

ことが重要だと思います。

○近藤委員 地図好きなので、地図見ていると歩きたくてしまうのですが、同じルートをみんな歩くわけですね。そこで出会いがあったりとか、そういうふうにつながれる仕掛けが、例えば、ここが休憩ポイントとか、そういうところがあると、あなたもマップ見て歩いているのですかみたいなことが起きると思うのですね。そういう仕掛けも入れられると、よりおもしろそうだなと。事例がまたいろいろ出てきたら、そういうのは横展開していけると、そういうコーディネーションするというのが大きい自治体としての役割かなと感じます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

立川のほうから資料の提供がありましたので、御説明いただきたいと思います。

○池田健康推進課長 一つ問題なのが、A3六つ折りということなのですけれども、今、練馬区から話がありましたけれども、例えば、八王子市とか、町田市とか、世田谷区とか、足立区などは面積が広いわけですね。とてもではないですけれども、A3に全地域を織り込むわけにいかないの、どこかの地区を絞ってやるようになっていくのかなというイメージなのですけれども、当然、先行してやるにしても、そこで10分の10が単年度ですよといった場合に、他の地区がやりたいといったときに補助がつかないとか、そういうことがないようにしていただきたいということをまず要望するとともに、立川のマップを配りましたけれども、これはもう8年とかたっていて、更新していませんけれども、健康づくりのボランティアで作っていただいた資料です。今、スポーツ振興課と言いますけれども、体育部門と健康部門が連携して、あとは個別の1から20まであります。こんな細かなくてもいいと思うのですけれども、8年ぐらい前の資料であっても、数値の更新とか、齟齬はありますので、このまま利用はできませんけれども、考え方として、イメージとしてはこんなイメージなのかなということと、あとはやはり、今、先生が話したとおり、歴史とか、地域、地域によっては名所がありますので、名所めぐりとかねながら作っていくようなイメージがいいのかなということで、参考までにお配りしたので、A3でやった場合に、非常に地区が限定されて、行政区域が広いところなどはいろいろ配慮してあげないと大変かなということです。

以上です。

○宮地部会長 ありがとうございます。

こういうマップに補助金を出して、それぞれの自治体で作っていただいて、このウォーキングマップの事業を一昨年から考えてきたのですけれども、東京都全体のウォーキングマップを作れと。例えば、区市町村の境を超え道路などは走っているわけですから、境を越えたルートだってあり得る。将来、もっと有機的なものになっていくのではないですかというアイデアがありました。

大きさ、規模は区市町村によって違いますから、区市町村全体を網羅していただく必要はないと思うのですね。基幹駅周辺のウォーキングマップでも構わない。全体を網羅しな



ければ補助金の対象にならないとかいうことでは決してないですね。

ですから、先ほどの練馬区取組もそうですし、今、立川市から御意見が出たこともそうなのですけれども、区市町村のそれぞれのフォーカスしたいところに焦点を合わせたものを作っていただいて、健康効果のことをしっかりそこに入れ込んでいただく。立川も広いだらうと思うのですけれども、昭和記念公園あるいは玉川上水をうまく活用するとか、あるいは立川駅周辺を活用するとか、立川駅だと難しいならモノレール沿いもあるでしょうし、地域の特性に合った取組をしていただければいいのではないかと思います。そういう考えでよろしいでしょうか。

○山下健康推進課長 そうですね。自治体によってウォーキングのコースが相当広がりがある場合だと、当然、一枚におさまらないこともあるかと思しますので、地区別に分割して作っていただくとかいうこともやり方だと思います。

また、サイズについても、最終的に持ち歩きに便利なサイズになれば、必ずしもこの大きさでなければいけないということではございません。

あと、補助金のほうですけれども、10分の10の補助を包括補助で私どもがやる場合は、先駆的事業としては最長3年間となりますけれども、逆に言うと、3年かけて網羅する形で作っていただくことも可能かと思しますので、単年度ということではなく、対応させていただけるのではないかと考えておりますので、そのあたりも担当者にきちっと伝わるようにしたいと思います。

○宮地部会長 ぜひ予算のあるうちに、それを使って、区市町村でいいものを作っていたらとありがたいと思います。

多分、まだ意見はたくさんあると思うのですけれども、1つだけ、せっかくこういうのを補助事業を使って作っていただいたら、ベストプラクティスを集めていただいて、それを全ての区市町村で共有できるようにして、あっ、こんな作り方やアイデアがあったのかという気づきを促すような仕組みを、2年後、3年後を目指してやっていただければと思います。ウォーキングマップアワードとまでは言いませんけれども、素晴らしい事例を公表することも考えて。ウォーキングマップは、昔からあるのですが、こんなこと気づかなかったという新しいものはなかなか出てきていないというのが私の印象ですので、広く事例を収集していただけるとありがたいと思いました。

○倉橋委員 同じようなことで、前にも言ったことがあるのですけれども、例えば、隅田川の橋めぐりツアーというのは、各区に渡って、向こう側、こっち側、各区入り乱れるので、そういうルートを設定して、ここの部分は何区にお願いしますね、ここの部分は何区にお願いしますというのを総合するようなルートは東京都でないと作れないと思うのですよ。隅田川を例に出しましたがけれども、途中、スカイツリーにしろ、橋にしろ、橋は世界的にはバラエティーがあり過ぎて、すごく興味があるところなのですね。それに、外国人は結構歩くのですね。

それと、もう一つの要素が、オリンピック・パラリンピックは、最初のほうで少しその

話が出ていましたけれども、絶対、外国語版を作ればうけると思います。今、そういう案がないかもしれませんが、そういうものを作れという時期が絶対来ると思うのですね。今からそれを準備しておくべきだと思います。そういうのは産業労働局かもしれないけれども、ウォーキングマップですから、福祉保健局が主体的に作るというのは非常に意味のあることですし、最初にそういうことを挙げていく、計画を出していくことは非常に大事なことだと思います。他にも、例えば、玉川上水がありますね。玉川上水を歩くルート、あと、神田川などもあるかもしれませんね。

○宮地部会長 目黒川もありますし。

○倉橋委員 そうですね。「プラタモリ」みたいに、隠れたお堀、お堀は全部千代田区になってしまうからだめかな、そういうような、江戸城絡みのものもあると思いますし、東海道という手もありますね。そういうことを幾つか考えて、場合によっては業者をそれに絡ませてもいいと思います。先ほど近藤委員が言われましたけれども、お金を出して業者にルートを作らせて、スマートフォン対応の英語版のものを作るべきだと私は思っています。

○宮地部会長 ありがとうございます。

貴重な意見だと思いますね。なので、やはりこの補助事業を通して、しっかり複数年かけて蓄積して行って、今、いろいろ出たアイデアが実現できるようリソースをここで整えておいて、将来、オリンピックが来たときに、東京都全体のマップが作られておくということがすごく大事なのかなと思います。ぜひ、粛々と準備を進めていただければと思います。

旅行サイトで、京都で一番人気があるのは伏見稲荷なのです。何で伏見稲荷なのかと聞いたら、駅から歩いて行って、山をずっと登って、回って見ると1時間半ぐらいのウォーキングコースになるらしいのです。外国人は、ただ単に美術館、博物館とか、クローズなところよりも、気持ちよく物を見て歩き回ったというところに票が集まるのだそうなのです。多分、脳のエンドルフィンとか、景色の移り変わりを見られたとか、昔のお遍路さんの気持ちになれたとか、そういったものが印象として残る。恐らく、そういう印象は健康にもつながるいい効果をもたらすのだと思うのです。ウォーキングによって、ただ単に体にいいという発想だけではなくて、その地域の観光をそれで活性化させるという目的もある程度視野に入れたものをつくってもらうことをぜひ推進していただければと思います。

私ばかりしゃべってすみませんでした。また追加のコメントがあれば最後にお聞きさせていただきます。

では、時間も差し迫っていますので、次の議題に行きたいと思います。5つ目ですけれども、「その他」として2つが挙がっています。

まず、「平成25年度都民の健康や地域のつながりに関する意識・活動状況調査に関して」、事務局から御説明いただきたいと思います。

○山下健康推進課長 本日、机上配布資料で、報告書のほうは先ほどご覧いただきました

けれども、資料11にこの調査結果の報告書の活用と地域からの健康づくりを進めるに当たっての課題等について、事前のアンケートをまとめさせていただいております。

報告書のほうでございますけれども、平成25年度に実施いたしましたものでございまして、調査設計としまして、4ページにございますように、各自治体とも1,200余りの標本数を割り当てまして、男女、年齢2群に分けた場合でも一定の数が出るような形で行いました。

区市町村ごとの結果につきましては、報告書でいきますと、20ページですと主観的健康感でございますが、右側にこの結果を、男女別、年齢2区分で4群に分けてマップ表示しております。

また、32ページ以降では、同じく区市町村別、男女・年齢2区分別ごとにレーダーチャート上、Zスコアで表示しております。

資料11には、この調査結果の活用等についての御意見をまとめてございますが、本日、小平市の大崎様からは、この調査結果を独自に解析されたものを御提供いただいておりますので、この内容と推進員の方々の反応などもあわせてお聞かせいただければと考えております。

調査結果については以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

今、事務局から御説明がありましたけれども、大崎さんを御紹介いただきましたので、大崎さんから、この調査の結果等をご覧になっての御感想であったり、あるいは解析結果と他の推進員の方々の反応等について、御報告をお願いいたします。

○大崎氏 小平市地域健康づくり公募推進員の大崎と申します。

まず、この都の調査結果を個人的に整理した理由は、ただ単純に、自分が住んでいる市が、地域の皆さんがどういう感じを持っているのかを知りたかったということです。データは、性別（男性と女性）、年代別（20～64歳と65歳以上）の4つのグループについてそれぞれ示されておりました。専門家の皆さんに対してこう言うのも失礼なのですが、各グループ100人位ずつサンプリングされていたと思うので、標本誤差とすれば大体±10%位と推定されるので、1つのグループだけ、例えば、男性（20～64歳）だけを単独で見ても、標本誤差が大きいので優劣の順位はわからない。しかし、他の3つのグループ、即ち、男性（65歳以上）、女性（20～64歳）と女性（65歳以上）を4つ並べて見れば、ひょっとしたら何かわかることはないのかなと考えてみました。

最初に、例えば、男性（20～64歳）のグループで、市がどれだけ健康づくりに積極的でありますかという設問に対し、「積極的である」と「どちらかといえば積極的である」と回答率の高い順に並べて、26市を5つの階層に分けました。真ん中の第3階層だけを6つにして、上位の第1、第2階層はそれぞれ5つ、下位の第4、第5階層も5つに分けて色分けしました。青の濃いほうは、青い空という意味で、いい方向だと。下のほうは信号機で、ちょっと低いねという形で、色分けして視覚的に見やすくしました。

そうやって4つのグループの順位付けした結果を、各市の総合成績としてどうやってランキングしようかということで、各市における4つのグループのランクをとりあえず合計してみたのが右から3番目の列に書いたΣランクということです。この値が小さい市が、市民の方からは「健康づくりに積極的ある」と評価されていると考え、最後の総合ランクという形になっています。

「健康づくりに積極的ある」について、私の住む小平市は第3階層、市民の評価としては大体真ん中ぐらい、近隣の清瀬市、西東京市、東村山市は、そうか、こんな感じなのだ。この結果を地域健康づくり推進会の定例会で報告しました。

そのときの出席者の反応ですが、推進員に関しては、他の市のことはみんなわかりませんで、ああ、小平市は真ん中なのだ、そういう印象です。市のスタッフですが、ちょっとわかりません。ひょっとしたら、この結果を見て、隣近所の市なので、ああ、こういうこともあるのかなと感じたことがあるのかもしれない。

これに対し、「野菜の摂取量1日350g以上」の認知度に関しては、市の栄養士のグループからは非常にいい反応がありました。栄養士が認知度向上に注力していた女性（20～64歳）のグループが1位であったということです。この結果が、市の健康センターの入口に掲示され、たまたま都の担当者が私のインタビューに来られた時、その掲示に気付き、都の調査結果について話が弾みました。

さらに、市の栄養士の話を聞くと、確かに全体的にも高いレベルであるのだということは、素直に喜んでいましたが、女性（65歳以上）のグループが10位というのはちょっと意外（低い）ねというコメントもありました。そこでおっしゃっていたのは、このグループにおける認知度が低い理由をちょっと考えてみなくてはいけないねというお話がありました。だから、この結果を見て、いいところもあったけれども、そうでないところもあるなということで、今後の栄養指導というのですか、そういったところで、一つの考えるきっかけになったのではないかと思います。

なお、報告書のZスコアですが、統計に関する知識を有する人にとっては初歩的なものですが、そうではない市のスタッフにとって理解が難しいのではと思いました。

都の調査結果の今後の活用ですが、市の職員の方は、結果がただ単によかった、悪かったという見方ではなくて、こういう見方もされているのだということに気付き、わかっていたくということが非常に重要かと思います。強みのところはさらに伸ばすし、そうでなかったところは、優れた他市を見習うなど市民へのサービスに対して、いろいろ考えていかれるのではないかと感じました。

以上です。

○宮地部会長 ありがとうございます。

そもそもこの調査の結果は、区市町村の職員の方に見ていただくということでまとめたものなのですが、住民の方にも見ていただいて、しかも実際にいろいろなボランティア活動に生かしていただいたという大崎さんの事例で、本当にありがたいことだなど

考えております。今後もぜひこういうのを活用して、いわゆる健康づくり推進員さんや食改さんの活動に役立てていただければありがたいなと思います。また、今後、お近くでこういうことをやりましたよということがあれば、また御報告をどこかで、あるいは古川さんにお伝えしていただければありがたいなと思いました。

この表示は、見ていただくとわかるのですけれども、記述的なデータを、千代田区から始まって奥多摩という、いわゆる区市町村の番号順に並べてあったのですけれども、最初、私は、これはランキングの順に全部並べなさいと言いました。いいところから悪いところに、自分がどこにいるのかわかるように、下のほうにいるところにそれを見せるのだということで、最初、強硬に私はそれを言ったのですけれども、大崎さんがこういうふうにZスコアも出してくださって並べていただくと、おもしろいですね。小平は真ん中にある、平均値の小平だということなのですけれども、西東京市、東村山市はすぐ近くに、市部の真ん中あたりですけれども、やはり似たような特性を持っているのだなということがわかります。せめて西東京市ぐらいは抜けよと、小平住民としてそう言いたいところですが、まさに取組を可視化するという都の意図を活用した事例だと思います。今後も、積極的な活用をいただければということでありました。大崎さん、ありがとうございました。

では、次に、最後の議題になりますけれども、「平成27年度東京都健康づくり関連事業について」、事務局から御説明をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○山下健康推進課長 それでは、資料12「平成27年度ウェルネス・チャレンジ事業について」をご覧ください。A4横長になっております。

このウェルネス・チャレンジ事業でございますが、東京都健康推進プラン21（第二次）で目指しております、都民一人一人が望ましい生活習慣を継続して実践し、生活習慣病の発症・重症化予防を図るため、都民みずから負担感のない生活習慣の改善を実践できるよう、区市町村、あるいは民間団体等と連携して普及啓発、環境整備を行うものでございます。

「基本的な考え方」にございますように、地域における食生活改善の普及啓発を行うため、野菜メニュー店の食環境を整備するための情報誌の発行ですとか、あるいは関係団体と連携して、野菜メニューの摂取や身体活動・運動の増加を促すキャンペーンを行いますとともに、中小企業の健康づくりや地域とのつながりを醸成する取組を支援するというものでございます。

取組内容、下のほうに①から⑤まで記載してございますが、①は、東京都の保健所の管内での事業でございますが、地域における食生活改善普及としまして、1食120グラム以上の野菜を提供いただく野菜メニュー店の増加を図るものでございます。

②は、あと10分歩こうキャンペーンで、今回提示いたしましたウォーキングマップのひな形の活用も含めまして、1日の歩数の増加を図るものでございます。今年度は新宿駅に階段広告を出す予定でございます。

③が野菜のメニューを選ぼうキャンペーンで、昨年度もコンビニの店頭で野菜サラダ等

のコーナーにポップ掲示の協力をいただきましたが、今年度も同様の取組と、コンビニのPOSレジを活用した映像を流す予定でございます。

④は、10月に予定してございますが、中小企業の健康づくり支援事業として講演会を実施予定でございます。

⑤は、地域とのつながりの醸成ということで、本日御検討いただきました退職前の年代を主なターゲットとして、健康維持と地域とのつながりの重要性に関してのリーフレットを作成し、退職後の健康維持・増進への意識を醸成していくものでございます。

下のほうには、スケジュールとして予定しているものがございますが、今年度、既に走り出しているものもございませし、今後検討するものが入ってございます。

ウェルネス・チャレンジ事業につきましては、以上でございます。

続きまして、資料13をご覧ください。東京都健康推進プラン21の推進に当たりまして、健康づくり事業推進指導者の育成研修計画でございます。今年度の研修一覧でございまして、主な対象者は区市町村の健康づくり部門の担当者並びに医療保険者、あるいは区市町村の国保の担当者等を想定しているものでございます。さまざまなメニューを今年度も見直しを行ってやっておりますけれども、この中で13番は本日御出席いただいております近藤先生に、9月2日、地域のつながりの醸成ということで、健康格差の縮小に向けたソーシャルキャピタルの醸成について御講義いただく予定でございます。このコマについてもまだ募集中でございますので、よろしければ積極的な御参加をいただければと思います。

今年度の事業についての説明は以上でございます。

○宮地部会長 ありがとうございます。

事務局から、平成27年度東京都の健康づくり関連事業の御説明がありましたけれども、この内容について、御質問等ありますでしょうか。ほぼ決まっておりますので、今さら、これはだめというわけにはいかないのですけれども、よりよくするという観点から、御意見があれば、よろしく申し上げます。どうぞ。

○倉橋委員 栄養、運動などの施策としては十分にできていると思いますけれども、もう一つ、たばこという問題がありまして、報道などでもいろいろ問題とされているのですけれども、それについてももう少し進める必要があるかなと思っています。これについて、今後の方針等がございましたら、お伺いしたいと思います。

○宮地部会長 事務局、よろしく申し上げます。

○山下健康推進課長 喫煙につきましても健康推進プランの中で、一つの分野ということで取り上げておりまして、主な取組としまして、未成年者の喫煙防止と受動喫煙対策、それと禁煙希望者への支援というところがございませが、今年度、労安法の改正に伴って、従業員の受動喫煙防止というところもございませるので、今後、受動喫煙防止対策の中では、そういった観点からの普及啓発というところ、研修会で取り上げる等、検討しているところでございます。受動喫煙防止に関しては、どなたも異論のないところでございますので、

これをいかに実効性ある形で進めていくかというところが今後の課題でございます。

○**宮地部会長** ありがとうございます。

平成27年度のウェルネス・チャレンジ事業の中にはたばこのことが入っていないので、平成28年度以降、もしできるようでしたら、たばこストップとか、そういうことを言ってもらえるような事業も今後は御検討いただくとありがたいと思います。オリンピックを控えて、いろいろな議論があるかもしれませんが、ここにいる立場としては、東京都の喫煙状況、受動喫煙状況がよりよくなっていることを目指して活動していくということは、我々の部局としては重要なことですね。都全体の意見は別にして。そういったチャレンジを通して、少しずつ、少しずつ、そういう雰囲気を作っていくことも重要ですので、事務局で御検討ください。

他に何か御意見ありませんか。はい、先生。

○**近藤委員** これは私の私見として受けていただければと思うのですが、ウェルネス・チャレンジ事業の目的を読む限りは、健康日本21の第一次のパラダイムから抜けていないなと思うのです。都民みずからが負担感のない生活習慣の改善を自助努力で実践できるように、それを普及啓発して環境整備を行うと。下の具体的な取組内容も、8割方、普及啓発ですね。健康日本21（第二次）は明確に社会環境の整備で、こうすべき型であったという健康日本21の第一次の反省、つまり、個人の努力を追求し過ぎたことを反省して、もっと社会環境の整備で、自然と健康になれるようにしましょうということになっていますので、それに乗るのであれば、もうちょっと環境整備のところに予算を使っていくべきなのではないかと個人的には感じます。

○**宮地部会長** 事務局、何かありますか。

○**山下健康推進課長** 健康日本21（第二次）におきましては、負担感のないというところもまた一つの特徴でございます。近藤先生おっしゃるように、生活習慣の改善というところ、なかなか個人の努力だけでは難しいのはそのとおりでございますので、ウェルネス・チャレンジ事業におきましては、ある程度、生活習慣改善の意識を持ちながらも、なかなか続かないという方への支援ということで、環境整備というところも取り入れたつもりでございますが、まだまだ課題は多いと思いますので、より実効性が上がる形に、次年度以降、検討できればと考えております。ありがとうございます。

○**宮地部会長** 今の事務局の説明に追加させていただいてよろしいですか。このウェルネス・チャレンジ事業の目的と基本的な考え方ですけれども、環境整備を行うことはしっかりと盛り込んでいることと、あと、つながりを醸成するとか、関係団体と連携するといったところも、健康日本21（第二次）の精神をできるだけ反映するようにということは、私も健康日本21（第二次）の推進委員ですので、強く都にも求めてきたところでありました。ただし、実際の取組の内容を1から5まで眺めてみると、その目的や基本的な考え方が本当に反映されているかを見たときには、確かに不十分だろうなと感じますので、少しずつ、できる範囲で、都のほうでも、環境整備に重点を置いたところにシフトしていただ

いて、いい取組をしていただければと思います。よろしく願いいたします。

○近藤委員 具体的な追加で言うと、例えば、3の野菜メニューを選ぼうキャンペーンですけれども、これは完全に普及啓発に限られてしまっているのですね。負担感のないという趣旨も反映されていない状況なのですけれども、例えば、事例集の中で言うと、足立区のベジタベとか、これは地域の企業、レストランと組んで野菜メニューを増やしてもらったりとか、あと、荒川区でしたか、ポイントをつけて、インセンティブを活用したものです。健康日本21（第二次）でも、それを積極的に使いましょうと言っていますけれども、健康に無関心な方も、野菜をよりたくさん食べられるような環境整備の事例は進んできていますので、それを普及させるような、他の自治体にも支援を都でもするとか、それをどう戦略的にマネージしていくかというところでの知識の、担当者のバックアップ、そういったものもやれていけるといいのではないかと感じます。例えば、足立区もすごく頑張っているのですけれども、それがどれぐらい効果があるかという評価のところはもう一歩だと担当者からも聞いています。そういったところを、東京都とか、大きいところが支援できるような枠組みがあると、よりいいのではないのかと個人的に感じます。

○宮地部会長 ぜひ意見を参考にさせていただいて、来年度以降の取組に反映させていただきたいと思います。ありがとうございました。

他にないでしょうか。よろしいでしょうか。

今、近藤先生から、地域の健康づくりの方向性について、非常に貴重な意見が出ました。新しい考え方として、一人一人が頑張るということは、かなり頑張っていらっしゃるので、環境整備によって、そのことを強くサポートするという発想が、自治体や職域に必要ですので、そう進めていくということで、よろしく願いいたします。

私の拙い進行で時間を10分余り超過してしまいましたけれども、一応、本日の議題は終了したいと思います。今日は本当に活発な御意見をいただきまして、実のある会議ができたのではないかと思います。大きな会議ではなかなかこういう活発な意見が出てこなくて、ただただ進行するだけなのですけれども、今日は本当に先生方から貴重な御意見をいただいたと思います。もし後からこういうことを思いついたとか、あそこでは言えなかったけれども、ぜひ追加したいということがありましたら、私でも事務局でも構いませんので、遠慮なく、メールでも何でもいいので、お知らせいただきたいと思います。

一応、私のほうからの議事進行はこれにて終了なのですけれども、議事を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いします。

○山下健康推進課長 ありがとうございました。

それでは、最後に、事務局から2点、連絡事項がございます。

お車の駐車券が御入用の場合には、事務局にお声かけください。

また、机上配布となっております冊子につきましては、そのまま残していただきますようお願い申し上げます。

以上でございます。



それでは、本日、皆様、お忙しい中、活発な御議論、どうもありがとうございました。

○宮地部会長 どうもありがとうございました。

(午後 8 時 1 3 分 閉会)